

会議の概要(議事録)

会議の名称	(番号)	令和3年度すみだ健康づくり総合計画中間改定検討部会 第2回「健康に関する安全・安心部会」		
開催日時	令和3年7月21日(水) 午後1時半～3時			
開催場所	墨田区役所 12階 121会議室			
出席者数 (13人)	<p>【外部委員】 公益社団法人墨田区医師会副会長 湯城 宏悦 墨田区食品衛生協会会長 河西 紀道 墨田区環境衛生協会会長 佐藤 邦男 国立大学法人千葉大学予防医学センター准教授 花里 真道</p> <p>【庁内委員】 生活衛生課長 村田 里美 保健予防課長 武田 知子 生活衛生課食品衛生係主査 中谷 航平 保健計画課保健計画担当主査 深井 覚 保健計画課新保健施設等開設準備担当主査 多記 康司 防災課防災係 室内 美咲 安全支援課安全支援係 寺崎 哲央 環境保全課指導調査担当 七條 崇 ICT推進担当 石村 匡</p> <p>【欠席者】 公益社団法人墨田区医師会副会長 西島 由美 生活衛生課生活環境係主査 土門 由佳 保健予防課感染症係主査 青木 広子</p> <p>【事務局】 保健計画課健康推進担当 松本・川井 株式会社ルネサンス、株式会社クレメンティア</p>			
	公開(傍聴できる) 部分公開(部分傍聴できる)	傍聴者数	なし	
	非公開(傍聴できない)			
議 題	1 開会 2 生活衛生課長 挨拶 3 議事 (1) 前回の振り返りと施策体系等の変更点 (2) 基本目標 の施策と事業について (3) 事業と指標の関連について (4) その他 4 閉会			

配布資料	<p>1 すみだ健康づくり総合計画中間改定検討部会「健康に関する安全・安心部会」委員名簿</p> <p>2 第1回「健康に関する安全・安心部会」議事録</p> <p>3 ご意見シートまとめ</p> <p>4 すみだ健康づくり総合計画 施策の体系【修正版】</p> <p>5 すみだ健康づくり総合計画事業一覧</p> <p>6 事業と指標の関連について</p> <p>7 基本目標 改定案【修正版】</p> <p>8 ご意見・ご質問シート</p> <p>【参考】 すみだ健康づくり総合計画</p>
------	---

会議概要	<p>1 開会</p> <p>2 生活衛生課長 挨拶</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 前回の振り返りと施策体系等の変更点 資料2～4に基づき、事務局より説明</p> <p>(2) 基本目標 の施策と事業について 資料5、7に基づき、事務局より説明</p> <p>- <u>感染症対策の推進</u></p> <p>- <u>食品衛生の推進</u></p> <p>【意見・ご質問】</p> <p>湯城委員：この内容について、食品衛生の視点から河西委員へお伺いしたい。</p> <p>河西委員：関係のない話になってしまうが、昔はまちを歩くと墨田区の「健康区宣言」の看板が立っていたが、今はどうなっているのか。</p> <p>事務局：今も昭和59年当時のものが存在する。</p> <p>湯城委員：感染症対策の取組について補足して説明したい。年明け以降の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、オリンピックの延期や緊急事態宣言もあった。当時は医師会も医療機関も保健所もどうしたらよいかという状況だった。しかし、世間で言われているような保健所が検査を制限しているというような状況について、自分の実感では墨田区ではそういったことはなかったと感じている。結局、検査は保健所経由で依頼するもので、検査キットが手元にない状況であった時は「この人は検査をする必要があるのか」を1件1件確認しながらであり、世の中的には敷居が高かったように感じられたのかもしれないが、墨田区はそうではなかった。こういった充実した情報共有が可能になったのはちょうど1年前ごろであった。平成28年ごろ</p>
------	---

から、墨田区・江東区・江戸川区の医療圏での会議である地域医療構想調整会議が行われており、令和2年度の第1回目の会議(7月)で、新型コロナウイルスが蔓延する中での医療情報の共有をどのように行っていたのが話題となった。

当時墨田区では有効な手立てがなかったが、江戸川区では早い段階で病院間でのWEB会議などで情報共有がされているという話があり、出席していた委員で話し合い、墨田区でもさっそく始めましようとなった。そういう意味では、江戸川区のアイデアをいただいたというかたちである。墨田区の良かった点は、保健所の全面的な協力と医師会、病院、とくに墨東病院に入っていたことである。毎週1回、大晦日とGW以外休まず50回ほど行った。それにより、他の病院などとも状況の共有ができ、行政との連携がリアルタイムで可能となった。今年の1月には墨東病院でのベッドの待機者数と回復者の状況や、区が行う施策などの情報共有も可能であったため、円滑に動いていたと感じる。それぞれの感染者への対応や区民へのワクチン対策も同様である。早くからスタートしたこともそうだが、これだけ早いテンポでの接種はなかなかない。そのことが高齢者の感染者数減につながっていると思う。

しかし、6月ごろからは50代、20代の重症化患者は高齢者以上に多く、また、集中治療が必要であったり、長期化したりしたため、医療機関が厳しくなる要因となっている。

続いて、食の安全に関して学校教育の中で取り上げていけるのではないかという話があったが、そのあたりについてはいかがか。

中谷委員：現状、出前授業として保健所の職員が話をする機会はない。保健所との関わり合いでいうと、小学校の児童に毎年「手洗いをしましょう」をテーマに団扇作りをお願いし、それを区民の方に配るという事業をここ5年ほど実施している。しかし、出前授業は職員の体制や学校側の受け入れも考慮して行う必要がある。

湯城委員：河西委員、事業一覧をご覧ください、食の安全の取組について何かご意見があったらお願いしたい。

河西委員：区民の健康を守るということで、一貫して食中毒を出さないに向かっているが、なかなか難しいのが現在の状況である。また、別の話題だが、自分の家は飲食店なのだが、昨日東京都の職員が2人突然、感染対策の視察にきたので驚いた。

- 衛生的な生活環境の確保/公害対策等の推進

- 動物の適正管理の推進

【意見・ご質問等】

湯城委員：では、公害に関する苦情について、特に在宅勤務の増加に伴い騒音の対応状況などを七條委員へ伺いたい。

七條委員：解決困難な相談は昨年より増加している。そのため、区報で騒音等に関する

る相談窓口の記載をするとともに、HPの説明もリニューアルをし、スムーズに対応ができるようにしている。その他に、積極的にできることとして、建設工事の届け出があった事業者に関して、今まで以上に周囲への工事内容の説明をお願いしている。しかし、工場では費用負担の面からすぐに騒音を減らすのは難しいため、区の経営支援課で行っている助成金や対策のための融資の斡旋制度を紹介している状態である。

湯城委員：佐藤委員にお伺いしたいのだが、環境衛生関係での講習会等の実施については関してはどのような状況か。

佐藤委員：東京都の環境衛生協会は今年で3年目になる。毎年、衛生講習会は10回ほど開催しており、自分は10月に受講予定である。昨年は自主管理点検表というものがあり、コロナ蔓延に伴い営業日報やチェックシートの記入を昨年11月から今年6月までお願いした。コロナ感染を出さないようにという方向で、万が一出た場合、普段どんな取組をしていたか分かるようにしていた。墨田区の環境衛生協会は昨年も行えず、今年もおそらくできないかと思っている。また、衛生講習会も通常であれば年に2回実施しており、3年に一度くらいは行いたいができていない状態である。

- **健康危機管理体制の充実**

- **地域の保健・医療体制整備**

【意見・質問等】

湯城委員：ただいまの説明について、補足・ご意見等あるか。

佐藤委員：災害時の保健医療体制の整備について。理容組合は防災課と防災協定を結んでいる。その時に災害時に避難した方たちの調髪をする協定を結んでいる。誰でも行けるのかといってもそうではなく、ケア理容師の認定講習を受け、東京都並びに各地区で認定証をいただいている。現在も組合の半数が受けているので、災害時に出向くことができると思う。15年ほど前からの制度になるかと思う。

湯城委員：医師会と行政側とのつながりという点では、毎年9月に行われる総合防災訓練での医療救護活動に関する部分を医師会に依頼されて企画しており、その際には、歯科医師会や薬剤師会とも連携している。そういう意味では各団体間の付き合いは、地域の事情によって異なるようだが墨田区においては医師会と、歯科医師会、薬剤師会との関係性は良いし、柔道整復師会との関係もうまくいっていると思う。地域によってはそのようなお付き合いがないという話も聞く。また、訓練の時だけでなく普段から行政側と話をしたほうが良いのではないかと感じる。医師会の（災害医療関係の）委員会を開催するにあたって、行政側にも入ってもらったのは3年ほど前からである。そうしたなかで、災害発生時の対策は東日本大震災以降大幅に見直しがあり、墨田区においてもそれまでは保健センターや保健所に救護所を立ち上げる計画があったが、墨田区には7か所の救急病院があるため、そこに立ち上げをする内容に変更して、2018年と2019年に2

病院ずつ、近隣の医療機関や住民と災害発生時のシミュレーションを行った。コロナ禍において集合形式での訓練ができなくなったが、訓練をやらなくて良いかということとは違うので、この状況下でできることをやっていきたい。下半期に墨田中央病院で地震発生を想定して、複数の病院と通信を利用しての訓練を行う予定である。今までは一か所だったが、広い範囲で行うことによって、何ができないかを把握できるようにする。

これまでは、未知の感染症が流行することは想定していなかったため、そういう意味でも取り組んでいきたい。

続いて、寺崎委員に安全・安心メールの登録状況や課題について伺いたい。

寺崎委員：登録者数は25,000～26,000人。課題としては、墨田区民は27万人いるのに対し、10人に1人という状態であり、登録者を増加していきたい。配信情報については、大雨などの気象情報や、特殊詐欺の情報、また、ワクチンの接種情報（病院のワクチン接種のに空き状況など）を適宜流している。登録者数増加のために、「登録すると有益である」と感じられるようなインセンティブをしっかりと考えていきたい。

湯城委員：では、若年層高齢者層へのICTに関する取組について伺いたい。

石村委員：ソフト面でいうと、ネット回線が遅い地域や普段からデジタル技術に触れない高齢者の方への格差問題が考えられる。ハード面でいうと、地域BWAというものを推進しているところで、各避難所に設置が進んでいる。公共施設にも9月ごろを目安に設置していく予定である。また、ソフト面では普段触れない方への対応として、町会・自治体が主体で行政サービスの利用方法を学ぶスマホ教室などがある。加えて、9月中旬以降には、高齢者を対象とした講習会などのイベントを行うことで都から補助金ができるようになる。ただし、この状況下なので、教室などの集団実施は難しく、時期がずれる可能性もある。

- 健康なまちづくりに向けた環境整備

【意見・質問等】

湯城委員：ただいまの説明についてご質問はあるか。

花里委員、区民の健康度について補足をお願いしたい。

花里委員：区民の健康度評価事業についてはこれからの事業である。現在あるデータを見直し、課題を抽出していく。また、医療・介護などのデータの連携からも、傾向をとらえていく。「健康なまちづくりの推進」としてだが、健康を目的とするよりも、実現出来ると地域をより楽しんで生活出来る、屋外空間が活用されるなど、経済にも反映していくことができるのではないかと。そういった点で健康的な価値を位置付けていく。全体をみて地域づくりを意識していくことはほかの部署との協力が必要であり、現在の状態でどうなのか評価することも入ってくると思う。

	<p>(3)事業と指標の関連について 資料6、7に基づき、事務局より説明</p> <p>【意見・質問等】</p> <p>湯城委員：ただいまの説明に関してご質問はあるか。</p> <p>佐藤委員：以前は、自殺予防として、ゲートキーパーの講習会があって、4回ほど受けた記憶があるが、今はどうなっているのか。</p> <p>事務局：資料4の基本目標「自殺対策の推進」の中で議論をしている。全国的にはコロナ禍の影響もあり、自殺死亡率が上がっているが、墨田区は上がっていない。</p> <p>湯城委員：評価指標に関して花里委員にお伺いしたい。</p> <p>花里委員：今後の作業としては、KPIとして妥当な目標値を設定し、それに対してどれくらい達成できたかを検討予定だと思う。現状でアウトカム指標を動かせるほどのインパクトを持ちうる目標設定になると、目指すべきプロセスから外れるのではという懸念もある。いろいろご苦労があるかと思うが、KPI目標設定については検討をお願いしたい。もっと推進したら効果が得ると思うので、全体の話し合いでもっと声をあげられる仕組みになると良いのではないかと思う。</p> <p>(4)その他 資料9に基づき、ワークショップのご案内</p> <p>4 閉会</p> <p>村田課長：今後、皆様のご意見を踏まえて、引き続き計画案の改定作業を進めていく。作業部会は本日で終了だが、伺えなかったご意見については、事務局へご連絡を賜りたい。以上をもって、令和3年度「すみだ健康づくり総合計画中間改定検討部会 第2回『健康に関する安全・安心部会』」を終了する。</p> <hr/> <p>会議の概要は以上である。</p>
所 管 課	福祉保健部 保健衛生担当 保健計画課 健康推進担当（内線3505）